

# すももの郷通信

落合小  
学校通信  
No. 8  
2022.7.22  
発行 宮崎

本日終業式・・・やっぱり笑顔が一番！

～1学期間のご理解・ご協力に感謝いたします。～

落合小学校の子どもたちは、廊下や階段ですれ違ったときに「こんにちは」と自然なあいさつをしてくれます。とても、心温かい気持ちになります。この1学期間、子どもたちの笑顔をたくさん見かけることができました。マスクを外して休み時間に元気いっぱいグラウンドで遊んでいるときはもちろんのこと、先生方の問いかけにニコッと笑ったり、友だちの発言を目で聞いてうなずいたり、目と目を合わせて微笑んだり、マスクで顔が隠れていても嬉しそうな表情が見えてきます。学校は、仲間と学び合うことを通して、様々な見方や考え方に会い、理解しながら、少しずつ社会性を育てていく場です。マスクをしたり、ソーシャルディスタンスを意識したりしてではありますが、それでも人とのかかわりを喜び、笑顔を見せる子どもたちを見て、改めて小さな社会といわれる学校が持つ役割の大きさを感じています。

今後の見通しも不明瞭であり、コロナ感染症対策や熱中症対策など、学校生活が、いつ平常に近づくのかわからない状況です。学校行事などは、感染リスクを避けるために、場合によっては中止や延期または、工夫した形態で開催せざるを得ないことにご理解とご協力をお願いします。

学校は、目の前の子どもたちのために、「何ができるか」「どうしたらできるか」を考え、子どもの学びを止めない努力をしまいにいます。子どもの笑顔を支える教育を保護者・地域とともに創りたいと強く願っています。今後も、引き続きご理解とご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。



## 1学期の委員会活動の様子から

委員会活動では、子どもたちにとって学校生活がより楽しく、より充実したものになるよう学校内の仕事を分担し、課題に自治的に取り組む力を育てています。

### 熱中症にきをつけよう！！～保健委員会の取組みから～

7月7日（木）には、リモートで保健集会が行われました。保健委員会の子どもたちが、熱中症について、クイズもしながらわかりやすく説明してくれました。日ごろから、熱中症への注意は教職員も子どもたちへ呼びかけていますが、子どもたちが自ら取り組むことのその効果は大きいものがあります。



### 下駄箱の靴を揃えよう！！（その2）～体育環境委員会の取組みから～



7月8日（木）のお昼の放送で、体育環境委員会から下駄箱点検の放送がありました。

『今日は全校のくつがきれいにそろっていました。すべての学年がほくたちが声をかけなくてもくつをそろえることができ、ほくたちもうれしかったです。今日の下駄箱点検が1学期で最終になります。1学期間靴をきれいにそろえてくれてありがとうございました。夏休みに入るまで点検がなくてもくつをそろえるようにしましょう。』

「すももの郷通信No.3」でお伝えした、体育環境委員会の下駄箱点検の活動の様子です。活動の半ばとなりますが、継続して活動していることの成果が感じられますね。

## 3Dって何？

「3D」というと、何を連想されるでしょうか。多くの方は、「三次元」という言葉が浮かぶのではないのでしょうか。テレビなどで3DCADや3Dスキャナーで作成した三次元データを利用して、3Dプリンターでプラスチック等の素材でモデルを造形する様子がよく映し出されます。

しかし、これとは違った3Dで、「自分をだめにする3D」があります。あまりうれしくない3Dですが、ぜひ知っておいて欲しいと思います。とある雑誌に載っていた話ですが、それは、「**でも**」「**だって**」「**どうせ**」といった三つの頭文字のDをさします。子どもからこの言葉が様々なところ



ろで聞こえるようになったら、行動や内面に注意を払う必要があるそうです。「でも」「だって」は、まあ子どもがよく発する言葉ですが、おおむね「責任転嫁」や「他人転嫁」に使われることが多い言葉です。いつも対象が相手に向けられていて、自分の責任から逃れようとする、自己の行動を省みようとしない、言い訳として使われる言葉です。口癖のように使っていると、自分に対する素直さや責任感が育てられないこともあります。そして、挙げ句の果てに行き着くところは、最後のD「どうせ」です。これは、自己否定に繋がっていく言葉です。聞く耳を持たない状況になってしまったら、他から学ぼうという意欲もなくなり、人として成長することができなくなる危険が大きいそうです。

では、この3Dが様々なところで聞こえるようになったときの解決策ですが、「自信」や「自己肯定感」を持てるようにしていくことなのだそうです。「自信」や「自己肯定感」を高めるためにはセルフイメージづくりが大切です。自分がどんな人間なのかを自覚するためには、まわりの環境や身近な人の存在が重要です。良いセルフイメージを多くもつことが自信・自己肯定感につながります。そして、自信や自己肯定感を高めた人は、行動（パフォーマンス）が違ってくるのです。「よいところ、よい行い、得意なことをほめる、認める」と言う行為を繰り返していくことが子どもの身近にいる人の務めとなります。

## 夏休み ～体験で学ぶ～



小学校の6年間は大きく成長するときです。頭脳を鍛え、身体を動かし、体験を通してたくさんのことを学ぶときです。明日から34日間の長い夏休み、子どもたちのワクワク感は止まらないものです。多くの体験を積むには最高の時間です。

実は、体験といっても、特別なものである必要はありません。家族の一員として、やるべきことを責任をもって取り組ませることも大切な体験です。「手伝い」には、助けること・補助をすることもあります。子どもの「仕事」として日々の家庭の仕事を分担するという考え方もあります。お子さんの実態と家庭の実態に合わせて、取り組んでみてはどうでしょう。

そして、できたら褒めるというスタンスで、子どもたちに「役立ち感」を持たせて欲しいと思います。小さな自信が次の意欲につながります。日々の小さな体験の積み重ねによって、子どもたちは大きく成長していきます。

この1学期の子どもたちの成長は、めざましいものがあります。それぞれの発達段階の中で切磋琢磨し、より多くの友達と関わり、より多くの経験を積むことができました。私たち大人は、子どもたちの成長を褒め、これからの更なる成長への意欲を高めていきましょう。明日からいよいよ夏休みに入ります。子どもたちはこれまでに学んだ知恵と勇気と力をもとに夏休みの生活をつくっていきます。保護者の皆様には、自分の生活をつくる手助けをぜひよろしくお願いいたします。

三密を避け、感染症対策を心がけ、コロナに負けない気持ちを持って逞しくいきましょう。8月26日の2学期始業式には、たくましくパワーアップした子どもたちに会えることを楽しみにしています。

